

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>喜びの共有、心からの笑顔、その方らしい暮らしを支えることを理念としている。その方らしい暮らしが、自然と地域へ開かれるよう支援している。(個別の外出対応、行きたい場所への外出支援)</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念をスタッフルームに貼り出し、共有に努めている。</p>	○	<p>ミーティング等で再認識する機会を設け、理念を具体的に実践していることを確認したい。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>理念の浸透には至っていない。</p>	○	<p>送付書類や運営推進会議などでお知らせし、実践内容と照らし合わせて報告をしたい。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>通りかかる方には、挨拶を欠かさず行っている。また、ホーム主催のお祭りを開催し、近隣の方々へのお知らせも配布している。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域のお祭り・行事には出来る限り参加している。地域の清掃活動に参加したり、小学校の資源回収場所に指定していただいている。ホームでは、お祭りを開催し、地域の方々と交流をはかっている。</p>	○	<p>老人会、子ども会などとの交流を図りたい。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>3年目に入り、ご利用者様への支援の基盤は確立されたが、地域高齢者等に対する貢献を考えた取り組みは行われていない。介護への情報を提供出来るよう見えるところに呼びかけを掲示している。</p>	○	<p>ご利用者様に限らず、高齢者、認知症、地域密着などのキーワードについて、職員が話し合える状況を作りたい。また、お茶会を開催して、グループホームについて知ってもらえうきかけとしたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	指摘を受けた所は、即日改善している。		
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	意見は事業所内で話し合い、毎月のお便り等で改善内容や取り組み内容などを報告している。	○	よりサービスの向上に努めるよう、定期的に来れる方法を検討し、開催に結びつけたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市担当者とは、不明点などはその都度、電話にて指導・情報・助言をいただき対処、向上に取り組んでいる。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会があれば、積極的に参加しているが、職員への落とし込みには至っていない。現在のところ、必要な方がいないため活用されていないが、必要性に応じて支援していきたい。	○	職員に情報・制度を落とし込める研修の場を持てるよう努める。また、必要時、最新の正しい情報を提供出来るように、今後も研修等に参加する。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	言葉使いや不穏時の対応など、随時話し合う機会を設け、虐待に対する意識を高めている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	すべてを読み上げ、重要な箇所はより理解して頂けるように補足している。不安・疑問点は必ず尋ね説明をしている。その場だけでなく、後日の質問等に対しても説明している。	○	質問時は、その都度、理解・協力していただけるようにお話していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>発言できる方については、訪室時などに意見が出ることが多い。出た意見や要望は、ケアプランに反映している。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>毎月、個々の生活のご様子と、ホーム全体の行事報告を送付している。また、面会時には出納帳の確認をしていただいている。職員の自己紹介文と顔写真を送付している。</p>	○	職員紹介文は継続していきたい。
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族会などで出た意見は検討後、報告書で返答をしている。意見・苦情は随時承わっている。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>リーダーは、小さな意見でも管理者へ一報することに努め、改善できる点は即、改善している。苦情や不満・意見を言う機会として、運営者・管理者と面談を設けている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>ご利用者様・ご家族にご理解、ご協力をいただきながら、出来るだけ努めている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>工夫・検討をしながら最小限に抑える努力はしている。ご利用者様へのダメージの配慮は個々に合わせ行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	採用時に社内マニュアルを使用し、心得を中心とした研修を行っている。また、外部研修の情報を都度知らせ、積極的な参加を促している。	○	社内研修内容を日常の介護技術等の向上のみならず、多岐に渡って取組んでいきたい。(コミュニケーションの大切さ、接遇など)
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者は区内ケア連絡協議会への定期的参加にてネットワークを広げている。職員は全道規模のグループホーム職員のステップアップ研修(2日間)や清田区管理者会開催の研修・清田区グループホーム交流会等に参加している。ネットワーク作りも兼ねているが、全職員には至っていない。	○	管理者と一部職員は、同業者のグループホーム部会研修も随時参加しているが、他の職員も参加していけるよう配慮していきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	新年会・みちの木祭り・親睦会及び個人面談等を行っている。管理者とは、一人で問題を抱え込まないよう、個別ミーティングを重ねている。	○	親睦会・個人面談等の機会を増やしていきたい。これらにより、相互話ができる雰囲気づくりに努め、ストレスがたまらないように見守っていききたい。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	年に1度、介護福祉士の資格を取得した職員や勤続年数の長い職員を表彰している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族やケアマネジャー、医療ソーシャルワーカーからの情報も加味しながら、ご本人自身から聴くことが出来るように、状況を見極めながら努力している。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	大変重要なことなので、了承をいただきケアマネジャー、医療ソーシャルワーカーなどからも情報収集を行い、困っていること等を引き出せるような促しも行う。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	聞き取りにより、訪問系の他のサービス利用の確認や状況、時により提案・助言が出来るよう努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人のできることを、やりたいことを自然に行えるよう、ゆったりとした雰囲気作りに努めている。馴染みのものや趣味の道具などを持ち込んでいただき、居室に限らず、リビングも過ごしやすい雰囲気としている。ご家族と細やかな情報交換をし、その方に合った方法を試みている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	調理方法を教えていただきながら、一緒に食事作りをしたり、植木や庭の手入れをお任せしている。年中行事については、ご利用者様、ご家族、職員も一緒に考えたり、話し合う機会をもっている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	行事に参加していただき、ご本人や他ご利用者様と一緒に過ごす機会としている。清田区グループホーム交流会では一緒にステージに立っている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	ご本人・ご家族それぞれとの信頼関係を深めることで、双方からの訴えを聞き取ることができている。ご家族への連絡を密に取ることで、訪問回数が増えるなどより良い関係に向かうことが多い。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	聞き取りによって得られた情報は、家族へ確認・依頼。ケアプランへの盛り込みにより、可能な限りケアに活かしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	出来るだけ自然な関係を保てるよう、座席等を柔軟に変更している。ご利用者様の心身状況に合わせ、職員が介入している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約終了後も、来訪や行事参加は気軽にさせていただけるようお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ミーティング等で出た意見についても、必ず一度、ご本人の立場に返って考え直す。職員がご本人本位の考え方を身につけている。	○	希望・意向を聞く場としては設けていない為、そのような場を作ることも必要であるとする。今後、検討し実施したい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居当初の情報のみだけでなく、ご本人の話から得た情報をご家族に確認するなど、継続してこれまでのご本人様の暮らしの情報把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日の記録と申し送りから、今、ご本人様にできることを常に把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人の意見を反映したケアプラン作りをしている。ご家族へは完成後、確認をいただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月を目安に見直しを行っている。具体的ケア内容は、毎日の申し送りや、月1回のミーティングにて見直し、変更を試みている。	○	期間の厳守。迅速な計画変更。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ご本人の言動を記録に残し、その思いがどこにあるか話し合いながらケアを実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	介護への情報の発信場所となれるよう、見える場所に呼びかけの掲示をしている。	○	今後も、機能を生かした支援について考えていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	学生、演奏のボランティアを受け入れている。警察にはご利用者様の名簿を提出している。管理者は甲種防火管理資格を取得し、消防署に防火管理者選任届出書を提出している。	○	情報収集に努め、より良い暮らしへ生かしたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	家族とも相談した上で、必要なサービスについて、ケアマネジャー及びサービス事業者から情報をいただいたり、話し合いを行っている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現状として必要性がある方がいないため、協働には至っていない。	○	必要に応じて、敏速に協働していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護の導入。可能な限り、通い慣れたかかりつけの病院への受診を支援し、外来看護師とはいつでも相談できる関係を作っている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症老人専門外来を受診。緊急時は電話など対応・指導を受けている。また、状態により、ご本人が受診出来なくても、相談できる体制になっている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護の導入。可能な限り、通い慣れたかかりつけの病院への受診を支援し、外来看護師とはいつでも相談できる関係を作っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	およその入院期間の見通しを教えていただき、退院前には、連携を取って必要な環境を事前に整えている。退院前には面談を行っている。	○	双方にとって更に良い連携を取るために、現在、環境整備中である。2月中には確立される予定。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	現在のところ、ターミナルケアの必要性がないため、具体的な話し合いには至っていない。	○	生活の様子、健康状態、医師との連携により、出来るだけ早い段階に意向を確認し、方針を共有できるよう努めたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	今後の変化に備えての医療機関との連携、対応はチームとしての話し合いを行うことになっている。	○	必要時には、チームとして支援できるよう、取り組みについて話し合い、ご利用者様にとって良い状況を作り上げたい。事業所の「できること・できないこと」は検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ご本人への面談を重ね、家族、ケアマネジャーからの情報を共有することに努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>申し送りや、記録の際には居室番号を使用している。(職員以外は知らせていない)</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>いる日頃の会話や様子から、希望をくみ取っている。また、意見のできる力がある方からは、個別対応時に詳細な希望を聞き取り、できること・できないことを説明しながら、実現に向け話し合っている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>毎日の日課はあるが、時間にはとらわれず、その日の気分により参加されている。また、希望があれば、日課やメニューが変更することも日常的である。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>理・美容は訪問美容を利用している。髪形や洋服は、ご本人が選べるように助言している。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>調理、味の調整、メニューの考案を日常的に一緒に行っている。食べたい物のリクエストは会話の中から汲み取ることも含め、常に取り入れている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	希望がある場合は、支援できている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人一人に合った下着やおむつを紹介している。また、一人一人の排泄に関するニーズを明確にし、おむつ等の使用や、トイレ誘導、清拭介助を行っている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入る日や時間は本人が決められるよう配慮している。その方に合った声掛けにより、2～3日置きに入浴できるよう調整している。午前中が入りやすい、午後1番に入りやすい等、一人一人の希望に合わせて、職員が声掛けをしている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	就寝時間は、ご本人に合わせている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人一人の状況に合わせて、役割を発揮できる場面作りをしている。演奏、日めくりカレンダー作り、メモ用紙作り、メニュー書き、米とぎ等、日常的な物から、職員の工夫で始まった作業、役割もある。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望のある場合には、自己管理していただいている。	○	特別な希望がなくても、使う機会を設定している。
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	可能な限り、希望にそって対応している。日頃の会話から、希望がうかがえる方には、きっかけ作りも行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族へ、ご本人の希望を伝えている。ご家族で難しい対応は、個別にホーム対応を行うなどしている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	月に1度、ご家族主催にて、ホーム内で絵手紙教室を行っている。作品は希望するところへ郵送している。電話も掛けたいときに掛けられる。番号がわからなければ、家族へ聞いてみることをすすめている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	自室でも、リビングでもくつろいでいただいている。いつでも訪問していただけるように、面会時間は決めていない。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「待つ」「ダメ」など言葉による抑制も視野にいれ、拘束廃止に努めている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	プライバシー確保が必要な場合以外、鍵は使用していない。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は、職員間で連携を取り、ご利用者様の所在・様子を把握している。夜間は、一人一人の状態に合わせ安否確認を行っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	見守りで使用できる段階、持っていること自体が危険な段階など見極め、その段階に合わせて、ご本人の自尊心に配慮しながら対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防 ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応 じた事故防止に取り組んでいる。	可能性がある場合には、その場にいる職員で話し合い、一時的な対応をすると共に、 ミーティングや意見交換ノートにて、その対応について検討している。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全て の職員が応急手当や初期対応の訓練を定 期的に行っている。	半数程度の職員が救急救命講習を受講している。	○	まだ受講していない職員にも、受講できるよう配慮する。1度受けた者も、 定期的に講習を受ける。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を 問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得ら れるよう働きかけている。	町内会長に推進会議に参加していただき、ご理解と協力は約束いただいている。避 難経路は確保しているが避難方法の確立には至っていない。	○	防災訓練を実施し、避難方法を身に付ける。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家 族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切 にした対応策を話し合っている。	リスクやトラブル回避については、段階的にご家族へ報告・相談を重ねながら行って いる。ご本人の意思・プライバシーを大切にすることにより、リスクが生じることに ついて、説明を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に 努め、気づいた際には速やかに情報を共有 し、対応に結び付けている。	毎日のバイタル測定、訪問看護のファイルに目を通し、異変のある場合は申し送り、 様子観察、再検を行っている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について理解して おり、服薬の支援と症状の変化の確認に努 めている。	正しく服薬してもらうことを基本とし、服薬ファイルにいつでも目を通せる形で情報を 残している。欠食などの異変時は薬局や主治医へ確認し、指示を仰いでいる。副 用についても同様。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解 し、予防と対応のための飲食物の工夫や身 体を動かさず働きかけに取り組んでいる。	ラジオ体操を日課で行う。果物を勧めることなどを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	ご本人の生活習慣により、毎食後～1日1回の歯磨きを行っている。必要時に介助を行っている。また、汚れやにおい発生時は、訪問歯科に相談している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	必要時、水分量チェックを行っている。好みの飲み物を把握し、用意している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い・うがいの励行。消毒液の完備を行っている。	○	知識として持っている職員もいるが、高齢者がなりうる感染症全てではないため、症状・対応方法を理解し予防・対策が出来るよう、研修などで取り上げたい。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日、まな板の消毒、調理台や流しの消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	スロープを設置している。季節に合わせた飾りつけなど、工夫している。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	植木や写真、手作りのカレンダーや個人の作品など飾ってあるスペースが多くある。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	椅子の配置の工夫を行い、視覚的に一人になれる空間に配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている。	入居時には、使い慣れた物やアルバム等の記念品の持ち込みをお願いしている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないように配慮し、利用者の状況に 応じてこまめに行っている。	朝の掃除の時間の他、必要に応じて行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している。	杖、車椅子の使用が可能である。	○	身体機能に合わせ、手すりの増設などの必要性を、定期的に検討する。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や 失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫 している。	混乱や失敗の際にも、何気ない対応でご本人に悟られないよう処理する等、対応に 工夫している。できることは毎日継続し、身体で覚えていただけるようケアしている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている。	庭で食事、花壇や畑の手入れ、収穫など気軽に行える。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ① 毎日ある <input type="radio"/> ② 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③ たまにある <input type="radio"/> ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input checked="" type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族 <input checked="" type="radio"/> ② 家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input type="radio"/> ③ たまに <input type="radio"/> ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ○②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ○②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ○②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ○②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

「みちの木祭り」には、近隣の病院、福祉施設、ご近所へも案内を差し上げ多くの方が訪れている。行事には、家族参加を呼びかけ1/3～半数近くのご家族参加がある。また、自分の家族だけではなく、他ご利用者様と親しく会話される場面が多い。誕生会は、誕生日当日に行い、家族参加も呼びかけている。食事は、ご利用者様の好みに合わせ、柔軟に対応している。リクエストメニュー、その場で出た意見のくみ取りなど日常的に行っている。